



北陵ニューズレター



第11号

令和6年6月1日(発行)
題字：齋藤 理彩子 (高68回)
発行：宮城県仙台第二高等学校
同窓会

「あいさつ」

同窓会会長 佐藤 一郎 (高17回)

「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず。淀みに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたるためしなし。世の中にある人とすみかと、またかくのごとし。」と、鴨長明は『方丈記』冒頭で述べています。

わたしたちは、コロナ禍、ウクライナ、パレスチナの戦争など、「グローバルな地球社会」での時代の流れや、東日本大震災、能登半島地震など、大きな自然の力に翻弄される、「ローカルな地域社会」での小さな生き物にすぎないのかもしれない。

そのようななかでも、仙台第二高等学校同窓会のこれまでの歴史を、そして現在を、どのようにして生きてきた証として残していけばよいのか、いつも、じっくりと、見つめ直さなければなりません。先日、千田耕一副会長から、令和6年2月10日に開催された「令和5年度北斗会総会」に出席したとの報告を受け、「北斗会300回記念誌 もののふ情けの碑」(平成26(2014)年9月1日発行)を見せていただきました。その300回という講演を記念に、この小冊子作成が計画されたようですが、拝見すると、「北斗会 — わが命」と冒頭で、ほぼ40年間の長きにわたって主催者を務めた青山史朗(中40回)さんが北斗会創設について記しており、昭和50(1975)年9月9日、第1回、安西浩(東京ガス会長)「シベリア油田開発について」をもって、毎月の講演が始まっています。今後、北斗会は、在東京同窓会(上條努(高24回)会長)と合流することになるのではないかと、お聞きしました。また、東京での北斗会を見習い、仙台北陵会の講演会活動も高橋正道(高3回)さんを中心に始まり、活発に活動してきましたが、コロナ禍などで中断されていたとお聞きしておりました。しかし、新たに世話人会が結成され、今年度から講演会を再開するとのこと。5月9日、わたくしが「絵画、この道」という題目で、お話をいたしました。

コロナ禍後、昨年来、同窓会各支部、または職能団体における同窓会活動は復活、活況を呈しております。また、昨年度に引き続き、小野寺満明副会長が中心になって、令和6年6月15日(土)には「若手会員交流会」、来年、令和7年1月11日(土)には「同窓会新年懇親会(+高75回二十歳を祝う会)」が江陽グランドホテルで開催されます。このような同窓会活動を十全に行うには、同窓会の皆さんのご参加と、同窓会会費のご納入、同窓会へのご寄付が必要となっております。なにとぞよろしくお願いいたします。

広瀬川は絶えることなく流れていますが、そこを流れる水は、同じもとの水ではありません。しかし、澱橋の袂の水の流れは大きくなったり、小さくなったり、水の泡はできたり、消えてしまいますが、再び、大きく流れはじめ、浮き出てくるのです。広瀬川は、ひいては仙台第二高等学校同窓会は、われわれの心を寄せる川としていつも流れ、われわれに潤いを与えてくれるのでしょう。

〈2024年度 事業計画〉

同窓会公式行事

日 時	行 事	会 場
4/8(月)	入学式	二高講堂
4/24(水)	大運動会(活動助成)	二高校庭
5/1(水)	創立記念講演会	二高講堂
5/11(土)	硬式野球定期戦	楽天モバイルパーク宮城
5/19(日)	対一高同窓会ゴルフ対抗戦	富谷カントリークラブ
5/25(土)	定例評議員会	江陽グランドホテル
6/1(土)	北陵ニューズレター第11号発刊	
6/15(土)	若手会員交流会	江陽グランドホテル
6/19(水)	当番回期打ち合わせ会 (高35・36・47・48・59・60回)	二高会議室
7/6(土)	校内ツアー	二高
7/6(土)	同窓会総会・講演会・懇親会	江陽グランドホテル

8/31 (土)・9/1 (日)	北陵祭 (同窓会ブース開設予定)	二高
12/1 (日)	同窓会報第57号発刊	
12/18 (水)	当番回期新年懇親会打ち合わせ会 (高36・37・48・49・60・61回)	二高会議室
1/11 (土)	同窓会新年懇親会 (高75回二十歳を祝う会) (クラブ活動後援会への寄付)	江陽グランドホテル
2/28 (金)	同窓会入会式	二高講堂
3/1 (土)	77回卒業式	二高講堂

理事会

*原則として、第3水曜日に開催 (12回)
4/17 5/8 6/19 7/24 8/21 9/18 10/16 11/20 12/18 1/15 2/19 3/19

○令和5年度同窓会入会式

令和6年2月29日、同窓会入会式が二高講堂で盛大に行われました。冒頭佐藤一郎会長より『二高では、美術部に入学し二宮不二磨先生に薫陶を受け、卒業後東京藝術大学に入学、その後ドイツのハンブルク美術大学に留学生として4年間在籍し、画家として、絵画研究者及び絵画教育者として歩みを重ねて来れたのも、二高の素晴らしい教育環境に育まれたからである。』と挨拶がありました。

次に小野寺満明副会長がパワーポイントを使用して同窓会活動を紹介し、改めて同窓会が国内及び海外拠点をもつ組織であることが説明されました。

次に新同窓生への卒業記念品の贈呈が行われ、その後会長より評議員、常任委員に委嘱状が渡され、最後に新評議員の高76回評議員杉田知泰氏から挨拶があり、閉会となりました。

(高17回 佐藤裕洋)

○令和5年度卒業式

令和6年3月1日 朝から生憎の雨模様の中、76回卒業式が挙行されました。

今年度の卒業式も前回同様、コロナ禍の制限もなく保護者や佐藤一郎会長をはじめとするご来賓、そして教職員の参加という形式になりました。保護者や教職員が見守る中、スーツ姿や晴れ着など思い思いの華やかな服装に身を包んだ卒業生たちが吹奏楽部の演奏に合わせて入場し卒業式は始まりました。開会の辞、国歌斉唱の後、卒業生がクラス毎に一人一人呼名され、クラス代表に卒業証書が授与されました。担任の先生がそれぞれの名前を呼び元気よく返事をする卒業生の顔は晴れ晴れとした凛々しい顔つきになっていました。その後の高橋賢校長から、「卒業生の皆さんは、コロナ禍という過酷な環境の中、入学し先の見えない中、見失わず、学業などに志を高く挑戦してきた姿に心動かされました。卒業する皆さんにはこれから多くのことを学び知恵をつけ、全てに愛情を注ぎ、目標を達成するために情熱をもって正しく行動する人になってほしい。」という、式辞が述べられました。佐藤一郎会長からは、「新型コロナウイルスが落ち着き、例年通りの卒業式を迎えられ、卒業生の皆さんの校歌斉唱を直に聞くことが出来るのは嬉しく、政治、経済、法律、生活、文化のあらゆる領域が、互いに密接につながる「グローバルな地球社会」の構造的変容に対応しうるのは卒業生の皆さん一人一人の若人の、多様性に満ちた生きるエネルギーの集積である。」と祝辞を頂きました。

その後在校生代表、卒業生代表の挨拶、校歌の斉唱の後、閉会の辞をもって無事に卒業式は終了いたしました。卒業式が終了した後、卒業生の退場前に保護者代表からの学校側への感謝の言葉とお世話になった教職員の皆様へ、卒業生から花束と記念品の贈呈が行われ、受け取っていた教職員の笑顔の中の少し淋しげな表情が印象的でした。卒業生退場の前、最後に応援団長が「ちょっと、待った」と叫びながら壇上に立ち、卒業生とともに「頑張れ、二高」のエールと「雨か嵐か」を送るというサプライズが行われ、卒業生は別れを惜しみながらもどこか晴れ晴れとした表情で会場を後にしました。卒業生の皆様の新たな門出に際し、更なる飛躍と今後のご活躍をお祈り致します。

(高44回 斉藤雅樹)

○令和6年度入学式

令和6年4月8日桜満開の中令和6年度入学式が執り行われました。本年度の栄えある入学を許可された新入生は男子183名、女子137名、合計320名となりました。

今年度の入学式は昨年同様従来の形に戻り父兄は2名まで参加可能となり優しいまなざしで見守っておりました。開

式の辞により式が始まり国歌斉唱、各クラス担任により新入生の呼名がおこなわれました。高橋賢校長は式辞で「私たちは果たすべき何かを一人一人が持っている。この世に生を受けていて、自分の果たすべき使命を自覚して社会や人々のために尽くしていくこととその気持ちを持ち続けることが大切です。私たちが未来の人たちが幸せな生活を送れる社会を築いていくことが大切です。未来に羽ばたく皆さんに心に留めてほしいこと。それは、「知者（知恵のある人。知識が豊富な人。）は判断に惑わず。仁者（思いやりのある人。愛情がある人。人との関係も良好。）は憂えず。勇者（揺るがない強い心を持つ人。人として正しいことができる人）は恐れず。これからも多くのことを学んで知恵を持ち、すべての人に愛情を持って接し、情熱を持って正しく行動する人になってください。」とメッセージを送りました。

佐藤一郎会長の祝辞では「仙台二高は、それぞれの立場を尊重し、多様性を秘めたそれぞれの人格を認め合う場なのです。人と人との会話、コミュニケーションは、微笑みあいながら、共に感じあい、会話が積み重ねられると仲間としての信頼感が生まれ、この小さな共同体はより活性化するでしょう。近い将来ローカルな地域社会とグローバルな地球社会の一員として、なにもものかを作り出し、厳しさを乗り越えて、その厳しさのおかげで身近な人々にありがとうと言える人間としての成長を祈念いたします」と祝辞をいただきました。さらに宮城伸彦 PTA 会長よりお言葉をいただきました。

最後に合唱部による校歌斉唱が行われ入学式が終了しました。

(高 23 回 小野寺満明)

<全国大会出場>

● 囲碁部…第 18 回全国高等学校囲碁選抜大会
男子団体戦 優勝

● フェンシング部…第 48 回全国高等学校フェンシング大会
女子エベ学校対抗戦 ベスト 16

○同窓会新年懇親会当番回期決意

高 35 回 菊地 徹

7月の総会に向けて準備を進めております。多くの同窓生の皆様にご参加いただき、盛会となるように尽力して参ります。今年1月の新年懇親会には多くの皆様にご参加いただきました。それとともに高74回生の二十歳を祝う会も盛大に行うことができました。皆様のご協力に感謝申し上げます。これからも、6月の若手交流会・7月の総会・1月の新年会に多くの同窓生の皆様にご参加されることを祈念しております。

○評議員推薦のお願い

評議員会は同窓会の最終議決機関として、極めて重要な役割を果たしており、評議員各位のご尽力は同窓会活動上欠かせないものです。現在、評議員の定数は各回期2名となっております。評議員の選出については、同窓会会則第8条5項に「評議員は常任委員の互選により選出」とありますが、現実的な対応として「同回期生複数の推薦により選出」とさせていただいております。

定員を満たしていない回期の会員の皆様におかれましては、お早めに選出していただき、事務局までご一報ください。また、評議員の方が住所不明のため、実質的に欠員となっている回期があります。評議員名簿は同窓会報に記載されておりますのでご確認の上対応をお願い申し上げます。

○在校生の窓

「敬愛切磋を怠らず」

私達仙台二高囲碁部は、3月に大阪で選抜大会を戦ってきました。昨年の選手権に続く、団体戦での全国制覇を目指した私達は、新たなメンバーを迎えた新チームで戦いました。この大会は、3人でチームを組んだ各校が、4戦ずつ戦うスイス式トーナメントで行われました。参加校が16校と選手権より少なく、初戦から強豪校と言われる学校との対戦が続く厳しい戦いでしたが、4戦中3戦を3人が全勝して勝ち進み、他校を圧倒する総合力を見せつけて4連勝し、優勝を果たしました。さて、今大会の勝因ですが、二高の教育目標にもある「敬愛切磋」の理念が非常に大きかったです。普段の部活動から互いに実力を高め合ったことで、仲間を信じて一人一人がベストを尽くし、チームと仲間のためにという気持ちで支え合うことができました。7月には選手権があり、3連覇が懸かります。ですが、優勝や連覇とは考えず、今年のように支え合い、私達らしく戦いたいです。

(3年 千葉和真)